

政策分析シート

政策名		地球環境にやさしいまちづくり		政策No	15		部名	環境清掃部		
							部長名	緒方 清	内線	480
関連部名		管理部、土木部、教育委員会事務局								
行政評価事業体系		分野	防災・まちづくり・環境							
目的		便利で豊かに過ごせる生活と引き換えに、地球規模で温暖化や廃棄物等の問題がますます深刻化し環境の悪化が急速に進んでいる。 かけがえのない地球を将来の世代へ引き継ぐためには、環境への負荷が少ない省エネルギー、省資源型の生活や事業活動を行うとともに、限りある資源を循環して利用する循環型社会への転換をはかることが必要であり、23区に課せられた責務は重大である。 そのために、荒川区は、地球環境に配慮した質の高い都市環境を未来に引き継いでいくために、区民一人ひとりが環境問題を考え、行動するとともに、様々な主体が協働して「環境都市あらかわ」の実現をめざす。								
指標	政策の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明			
			平成16年度	平成17年度	(見込み) 平成18年度	目標値 (28年度)				
	①	区役所本庁舎温室効果ガス排出量削減率（対11年度比）	△6.08%	△5.69%	△6.0%	△6.0%以上	継続的な温室効果ガスの削減			
	②	エコライフチャレンジファミリー世帯数（累計）	1,002	1,382	1,600 (見込み)	5,000	参加世帯数を増やす			
	③	資源の回収量	11,273ト	11,392ト	11,426ト	17,000ト	資源回収の5割増を目指す			
	④	ごみの排出量	62,138ト	61,374ト	61,067ト	30,000ト	ごみ量の半減を目指す			
	⑤	リサイクル率	15.4%	15.7%	15.8%	36.2%	資源量/（ごみ量＋資源量）×100			
現状と課題		○荒川区では平成16年7月に気温41.4℃（都内2番目）を記録した。地球温暖化やヒートアイランド現象への積極的な対応が求められている。 ○資源のリサイクル率は15%台に止まっており、さらに資源の回収を積極的に進め利用の促進を図る必要がある。 ○ごみの排出量は、人口の増加にもかかわらず減少傾向にあるが、最終処分場の埋め立て可能年数は残りわずかであり、ごみの排出抑制と適正処理への取り組みが不可欠である。								
今後の方向性		○荒川区の今後の環境政策を総合的、専門的に検討する場として次の懇談会等を開催する。 ①環境都市あらかわづくり懇談会 ②（仮称）エコセンター等に関する構想策定懇談会 ③環境交通政策有識者会議 ④地球を守る区民会議 ⑤清掃審議会（一般廃棄物処理基本計画の改定） ○ごみの排出抑制と資源回収量の増大を図るために、19年度から集団回収モデル事業を全町会で実施する。								

政策を構成する施策の優先度		
施策名	政策推進のための優先度	優先度についての説明・意見等
環境配慮活動の推進	A	地球環境問題への取り組みを推進する。
地域の健康と安全の確保	C	区民の健康被害を防止する。
資源循環型清掃事業の推進	B	資源循環型社会を実現する。
ごみの適正処理の推進	B	快適な生活環境を確保する。